

[ホーム](#) > [デジタル](#) > [デジタル特集・連載](#)

シェア

ツイート

LINEで送る

Special E

世界のサカモト、僕の坂本 前衆院議員塩崎恭久さん 坂本龍一さん追悼



世界的な音楽家坂本龍一さんが3月28日に死去した。前衆院議員塩崎恭久さん（72）＝松山市＝は小、中、高校と同じ学校に通い、特に高校時代の2年間は国家や社会から最先端の文学などについて熱く語り合った親しい仲だった。「才能があって努力し、あらゆる方向で新しいものを取り込む人だった」一。半世紀以上友情を育んだ塩崎さんに、故人への思いを聞いた。
(今西晋、加藤太啓)

どこでどのように訃報に触れましたか。

アメリカやイタリアを結ぶオンライン会議をやっていた。長男が携帯持ってきて、ニュースを見せて。反応ができなかったが、やっぱり来たかって感じだった。（闘病中の坂本さんについて）マスコミがいくつか取材を申し込

ニュースを見ると頭が真っ白になった。こんなに早いと思わなかった。

近年はどんな連絡をとっていましたか。

このところずっと連絡をとれていなかった。（坂本さんが）がんになったこともあるけど、こちらも忙しかった。高校の同級生を通じて連絡をとることはあったが直接はずっと会ってないね。日本でコンサートやったときは会っているだろうと思うんだけど。



2008年、ニューヨークで坂本さん（左）と面会する塩崎さん＝塩崎さん提供（2人で撮った写真は）2008年にニューヨークに行ったとき。官房長官を務めた後だよな。その後はこちらも選挙が大変で、厚生労働大臣になったのもあって全然会えていない。

塩崎さんと坂本さんの出会いは中学のブラスバンド部だった。塩崎さんが部長を務め、チューバを担当した後輩が坂本さんだったんですね。

上手いんだけど、なんでうまいのかよくわからない生徒だった。芸大の先生に基本からきちっと習ってたということは当時全然知らないわけで

なかった。

寡黙な生徒だったね。体格が大きく大人びていて。でも中学生は1学年違うとほとんど接点がないでしょ。「練習に來いよ」と言ってもあまり来ず、練習しないのにうまいので、生意気なやつだなとは思っていた。その程度の関わりだった。本当に仲良くなるのは高校で同じクラスになってからだな。

都立新宿高校に進学した後、塩崎さんはアメリカに留学します。そこでさまざまな音楽と出会い、後に坂本さんと一緒に楽しむことになります。

いろんな機会に恵まれたと思う。1967～68年、アメリカに行った。世界的に有名な人たちが次々に（留学先だった）サンフランシスコに来て演奏していた。街から車で40分くらいのところ。

印象に残ったのは、3人編成のバンド・クリーム。舌でギターを弾くジミ・ヘンドリックスとか。ジミヘンもそうだけど、ジャニスジョプリンらその後すぐに亡くなった人もいる。（バンドの）ピンク・フロイドも来たな。そういうコンサートがあった場所の近くに1年間いたのは、あらゆる偶然が重なったんだろう。

その3年後くらい、大学生になってからまたアメリカに行くんだけど、その頃にはシアター形式になっていて、地べたに座ってロックを聴くような文化はなくなっていた。

LPをたくさん持って帰り、坂本と東京の自宅で一緒に聞いた。聞き入っていたよ。（アメリカの音楽文化と）彼我の差は歴然だった。当時はあまり紹介されていなかったから、坂本にとっても初めてだったでしょう。



坂本龍一さんの思い出を語る塩崎恭久さん

帰国後2人は都立新宿高校の同級生になります。塩崎さんは生徒会長として、坂本さんと一緒に制服や制帽の廃止などを求めて校長室を占拠してストライキするなどの活動に取り組みます。

制服なんてさまつなこと。むしろ教育のあり方とか、通信簿に表れる評価の仕方とか教育全体に関わることだよ。決まった授業、硬直的な評価だけで、人間の多様性はどうなるのか。本当に人間性が豊かになるんだろうかといった根源的な問いかけをしている。

アメリカでは国語、体育、アメリカ史だけが必須だけど、あとは自分で選択できる。全員が違うプログラムで勉強してるわけだよ。そういった教育改革を掛け合いにいった。坂本も意見が一致したから一緒に行動したんだよ。(校長と掛け合う時は)遅刻してきたけど。

坂本と同じクラスになり、僕が生徒会長になったのは68年9月。69年1月には全共闘の学生による東大安田講堂封鎖があり、フランスの学生運動が68年かな。社会が動きに動いている。一方でベトナム戦争が激しくなっ
て。文化も何もかもが大きく変わる時代だった。吉本隆明、小田実、埴谷雄高らいろいろな人がいろいろな発信を続けていた。「大学とは、国家とは」が関心の中心だった時代だよ。

坂本は、河出書房新社の編集長だった父一亀さんから作家の話もたくさん聞いてるわけ。彼からたくさん教えてもらった。文化の世界では横尾忠則さん。演劇では駆け出しのころの蜷川幸雄さんに出会ったりとか。いろいろなことを坂本と一緒に経験したんだよ。

安田講堂に機動隊が入る前日の夜、坂本と2人で行ったんだよ。

坂本さんが生涯をかけて訴えたテーマの一つに反戦もあります。塩崎さんも同じ考えでしょうか。

彼は当初、あんまり関心がなかった。むしろ僕。当時ベトナム戦争の反戦運動に取り組んだ社会科学部、いわゆる社研。学校の先生は参加しちゃいけないという反戦集会なんかにも行ってたよ。坂本も途中から来るようになった。事実上誘ってたんだよ僕が。



2014年3月、東京・日比谷野外音楽堂で開かれた脱原発の大規模集会でスピーチする坂本龍一さん (共同)

高校時代を一緒に過ごしたというのは大きい。

坂本と一緒に過ごそうと思って、過ごしたわけじゃない。たまたま、彼と出会ったというだけ。彼ははじめ、政治絡みのことに関心がなく、俺が引っ張り込んだようなものだ。

彼はとても敏感な人だから、世界の変化とか、先鋭的な芸術の変化とかにもものすごく敏感な人だよ。そういう面は向こうの方がはるかに進んでいた。

坂本さんは東京芸術大学、塩崎さんは東京大学に進まれました。進学後、二人の関係は少し離れたということですが、親交が戻ったのは、何かきっかけみたいなのがあったんですか。

それはオスカー（1988年の米アカデミー作曲賞）を獲った時だよ。高校の同級生で共通の友人である）馬場憲治と「これはやっぱりすごいことだから、お祝いしてあげよう」と話し、久しぶりに再会した。それから、また会うようになったんだよ。

坂本さんの音楽活動で、何が一番好きですか。

国会議員になるずっと前なんだけど、(松山市内の)ホテルでトークショーをやったんだよ。プロダクションからは演奏はだめだと言われていたけど、お願いしたらホテルの隅っこにおいてあるピアノをみんなの前で弾いてくれた。



新潟市の森を視察する「モア・トゥリーズ」の代表を務める坂本龍一さん(中央)
= 2010年11月(共同)

坂本さんは芸術活動だけでなく、反原発や反戦、あるいは自由を求める社会運動にも取り組まれていました。

彼は「more trees (モア・トゥリーズ)」っていう森林保全の活動もやっていて、高知県の檜原町とかによく来ていた。それで僕は何かの選挙の時にモア・トゥリーズの森林に投資・出資して、選挙活動で出たCO2をオフセット(埋め合わせ)するっていうのをやった。そういう繋がりもあったね。

与党の国会議員だった塩崎さんとリベラルな立場で市民活動されてる坂本さんって、素人目から見るとちょっと違う存在のように見えます。

で変わりではなく、やり方の問題でしょう。人間対人間の付き合い、それ以外に何もない。僕の父親の塩崎潤は松山生まれの松山育ちで衆議院議員になったわけだけど、同級生の集まりってのはすごく結束が固かったんだよね。普段は共産党を支援しているけど、衆議院だけは塩崎潤だっている人がいたよ。それと同じじゃない。同級生ってそういうもんだ。

塩崎さんにとって坂本さんはどんな存在でしたか。

希有な頭の良さがあった。そして、ただ頭がいいだけじゃなくて、芸術家としての基礎の上に限界に挑戦していた。学ばなければいけないなと思っていたよね。この混迷する日本と世界を、あいつだったら、どんな表現をしていたらうかっていうのは見てみたかった。

いいね! : 37

この記事を読んだ方におすすめ



岡本拓磨さん追悼試合・愛媛大一松山東

秋風が吹き、シーズンオフも近づいた11月3日、松山市内の野球場で、ある「追悼試合」が開かれた。対戦……



「足が速すぎる大学教授」は松山東高OB 五輪メダリストが驚いた世界新へのメソッド

陸上競技の花形、400メートルリレー。そのマスターズの45歳から49歳のクラスで2019年、日本が……



大谷のHRボールを手にしたのは松山の少年!! 奇跡を生んだバスケ修業

米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手が今月3日に放った今季2号の2ランホームラン。そのボールを手に……



愛媛発祥! オレンジデー ミカンをめぐる愛と闘いの物語

愛媛県民の皆さん、ご存じだろうか。4月14日は「オレンジデー」。2月14日のバレンタインデー、3月……



愛媛にパルクールが上陸!! 体も、頭も使って練習できるミクシングパークとは

走る。登る。跳ぶ。人間の基本的な移動動作を磨き上げ、心身を鍛えるスポーツ「パルクール」。若者に人気……



WBC優勝を支えた侍ジャパンのブルペン捕手 元愛媛MP・梶原有司

第5回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で14年ぶり3度目の優勝を飾った日本代表。その歓……

© The Ehime Shimibun Co.,Ltd. All rights reserved.

掲載している記事、写真などを許可なく転載、複製などに利用することはできません。